

553.311 (521.21) : 550.85

茨城県赤塚村付近砂鉄鉱床

宮本 弘道 江見 正民

茨城県東茨城郡赤塚村付近の砂鉄層は、古期段丘堆積層中に胚胎し、おもな露頭は4カ所にあり、そのうち第3露頭が鉱況最も優勢で、平均品位 Fe 15%、TiO₂ 2%と見込み、5,000tの鉱量が予想され、その他のもの

は規模がきわめて小さい。本地区の砂鉄層については今後開発が進んでも著しい鉱量の増加は期待し難い。(詳細は「未利用鉄資源」第3輯を参照されたい。)

553.311 (521.11) : 550.85+550.822

青森県天満林砂鉄鉱床の試錐について

宮本 弘道 伊藤 吉助 中川 忠夫

青森県天満鉱山の主要砂鉄層に試錐を行なったものでその目的は既知の2つの砂鉄層の関係をj知ることであつた。試錐の地点は周囲の地質から考慮して2点を選定し、それぞれ地表から59~78.5mの間、60.5~77mの間に厚さ1~2.5mの砂鉄層が確かめられた。しかし本層は一般に緩傾斜を示し、既知鉱床の急傾斜を示すものと

は鉱石の品位のうえでも差異を示し、平均品位 Fe 25% TiO₂ 4%と見込んで270万tが予想された。砂鉄層はさらに南方に延びる可能性があるから、今後この方面の探鉱に努める必要がある。(詳細は「未利用鉄資源」第1輯を参照されたい。)

553.317 (521.11) : 550.85

青森県大畑地区砂鉄鉱床

丸山 修司 高橋 兵一

青森県下北半島大畑地区に賦存する砂鉄層について相互の堆積関係、とくに二枚橋南方台地の砂鉄層の賦存状況をj知することに重点をおいた。

砂鉄層は (iv)砂岩層、(vi)燧岳前期角礫凝灰岩層および(viii)海岸段丘堆積層中に胚胎し、このうち(viii)のものが最も規模が大きく、走向方向約180m、傾斜方向20~30m、厚さ3m内外に達するレンズ状のものがあ

る。

鉱石は主として磁鉄鉱および赤鉄鉱からなり、チタン鉄鉱はきわめて微量含まれる。

調査当時は、東北砂鉄鋼業および三倉鉱業が(viii)海岸段丘堆積層中の砂鉄層を採掘し、砂鉄精鉱月平均1,500tを出鉱していた。(詳細は「未利用鉄資源」第2輯を参照されたい。)

553.661 (521.82) : 550.85

島根県蔵木鉱山および周辺地区地質鉱床について

山田 正春

本地域には、石英斑岩と古生層との接触部付近に胚胎する接触交代鉱床と、前記岩石の割れ目を充填する鉱脈型鉱床とがある。

鉱脈型鉱床は、高根鉱山を除けばおむね劣勢であり、接触交代鉱床は蔵木鉱山を除けば多くは期待できな

かつた。高根鉱山については鉱体の落しの方向の探鉱が、また蔵木鉱山については地質構造とくに石灰石構造に注意する必要がある。(詳細は「未利用鉄資源」第3輯を参照されたい。)

553.435(521.73) : 550.85

京都府河守鉱山について

武市 敏雄

河守鉱山は京都府加佐郡大江町河守上、千丈ヶ原付近に位置する。

地質は古生層粘板岩・砂岩と、これらを貫く黒雲母花崗岩・花崗閃緑岩・橄欖岩および蛇紋岩とからなる。

この鉱山の鉱床は橄欖岩を起源とする東西に延びる蛇紋岩の帯状地帯に不規則に生成された裂か充填含銅磁硫鉄鉱脈に属し、複雑な網状を呈する。鉱脈は現在走向延長 800 m、傾斜延長 300 m がみられ、下底部においても脈勢はなお好況を示し、鑛幅は薄いが銀・銅鉱として品位が良好である。母岩ならびにその変質作用の受け方の差により次の4種に分けることができる。

- (1) 母岩が橄欖岩であるとき
 - (2) 母岩が蛇紋岩であるとき
 - (3) 蛇紋岩が珪化作用をうけているとき
 - (4) 蛇紋岩が著しく珪化作用をうけているとき
- それぞれによつて鉱脈に優劣の差がある。鉱石は黄銅鉱・磁硫鉄鉱を主とし、黄鉄鉱・閃亜鉛鉱を伴う。鉱石の見掛け品位は銅 5~15 %で、鉱山側の分析結果によれば硫黄 28~30 %、銀平均 90~100 g/t である。今後に残された問題は選鉱であつて、銅鉱と磁硫鉄鉱の分離にある。 (昭和 29 年 6 月調査)